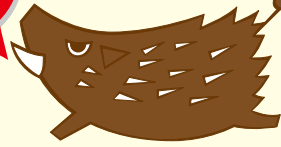


イノシシの噂

ウソ?

ホント?



人間とイノシシとの攻防の歴史は古く、農耕が生活の主体になった弥生時代から続くと考えられています。江戸時代には、各地でイノシシやシカによる甚大な被害が発生し、八戸藩では「猪飢饉」なるものが記録に残っています。そのため各地で農作物を守るための試みが行われていたのですが、中でも面白いのは甲斐国（現在の山梨県）の村明細帳です。ここには大きく分けると4つの対策があったことが記されています。

- ①環境整備：下草が茂ると猪鹿が隠れるので刈り取る。
- ②追い払い：畑の番小屋に泊まり込んで追い払う。鉄砲(空砲)でおどす。
- ③捕獲：耕作の間に狩りをする。猟師を雇う。
- ④囲う：猪鹿囲い(猪垣)を設置する。

一方、「神頼み」による対策もあったようで、最も有名なのが「狼札」「山犬信仰」です。これはオオカミの絵が描かれた札をまつったり、田畑に立てたり、神社に参ったりしたものです。被害対策の研修会でイノシシの対策は、「寄せない・入れない・捕まえる」と呪文のように覚えてもらっていますが、見事に実践されていたことが分かります。

現代でもイノシシに関する情報には迷信めいたものが紛れています。そのいくつかを紹介します。



小豆島の「猪垣」

1 イノシシは猪突猛進！ ウソ

もっとも勘違いされているのはイノシシの性格です。勇猛果敢で大胆不敵、向こう見ずな動物だと思われています。しかし実際は、臆病で繊細、安全第一な性格です。見慣れないものがあると、何度もにおいを嗅いで確認します。臆病な動物だからこそ、賢いかもしれません。



見慣れないカメラを
におうイノシシ

2 イノシシは夜行性！ ウソ

本来は、イノシシは昼行性です。人間が怖いので、出会わない夜間に行動するようになりました。そのため人気(ひとけ)のない農地であれば、昼間でも現れます。



昼間、人に見つかって、隠れている
つもりのウリ坊

有効な対策を講じるには、まず、「相手をよく知る」ことです。真偽が疑わしい噂はまだありますので、次の機会に紹介したいと思います。イノシシに関する疑問があれば、気軽にお問い合わせください。

問 日野郡鳥獣被害対策協議会 電話：0859-72-1399

お知らせ



日野郡にお住まいでミツバチを飼育される方（趣味の養蜂を含む）は、1年間（1月1日から12月31日まで）の飼育計画を毎年1月31日までに日野振興センターに届け出す必要があります。

昨年からの届け出先や届出様式が変更されていますので、手続き等にご不明な点がありましたら、問い合わせ先にご確認ください。

問 日野振興局 農業振興室 電話：0859-72-2007 FAX：0859-72-2011